

- 「GISフォーラム」の開催
～GISで実現する新たな可能性～
- 平成18年1月16日

総務省では、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)との共催により、GIS関連技術のより一層の普及を目的として「GISフォーラム」を開催します。
本フォーラムでは、専門家からGISの最新動向について講演をいただくほか、総務省及びNICTの研究成果の発表や会場周辺における実証実験も予定しています。

1. 日時及び会場

日 時:平成18年1月31日(火)10:30～16:50

場 所:東京會館 丸の内本館(東京都千代田区丸の内3丁目2番1号)
http://www.kaikan.co.jp/company/access_2.html

2. 講演(10:30～14:50)

<1>午前の部(10:30～12:00)

(1)「空間情報社会の実現に向けて」

柴崎 亮介(東京大学空間情報科学研究センター 教授)

ユビキタスネットワーク社会を迎え、膨大に発生するデータや情報が「大洪水」を引き起こさないように、データ・情報を場所や位置座標と関連づけ、地図上にマッピングすることで上手に管理する方法と、そのための社会インフラの姿を提案します。

(2)「バリアフリー空間情報と地域コミュニティ」

矢入 郁子(独立行政法人情報通信研究機構 主任研究員)

NICTから地図業者への技術移転も済み、標準化のフェーズに入ったバリア・バリアフリーマップなどの歩行者支援GIS研究の成果と、NICTのユビキタシティ研究で実施予定の空間情報を利用したコミュニティ支援研究構想を説明します。

<2>午後の部(13:00～14:50)

(3)「オープンソースGISソフトウェアの動向」

森 亮((株)オークニー 代表取締役)

最近普及が加速しつつあるオープンソースGISソフトウェアの解説、活用のノウハウ、採用事例、最新トレンド等を説明します。

(4)「次世代GISの研究開発成果 —モバイル端末への3次元地図伝送技術」

田中 聡(三菱電機(株) 表示システム技術部長)

携帯電話やPDAなどのモバイル端末で3次元GISの利用を可能とし、災害対策や歩行者ナビゲーションなどへの活用を狙った「次世代GIS」プロジェクトの全体概要を紹介するとともに、3次元地図のデータ量を圧縮することにより、モバイル端末への伝送・表示を可能とする技術の開発成果について報告します。

(5)「次世代GISの研究開発成果 —モバイル端末へ適用できるメディア複合技術」

松木 彰((株)NTTドコモ ソリューションビジネス部担当部長)

解像度や通信帯域の制限が多いモバイル端末上で、3次元空間情報を活用するための補完情報である文字、音声、映像など各種メディアを効率的に自動挿入する技術の開発成果について報告します。

(6)「次世代GISの研究開発成果 —災害情報の早期伝達のための航空測量データ圧縮技術」

浅沼 俊一((株)パスコ モバイル事業部専門課長)

広域地震災害では、災害規模、広がり等の短時間掌握が重要となっており、航空機で取得した画像及び3次元データを衛星経由で地上へ送信するための圧縮技術の開発成果について報告します。

3. 展 示・・・東京會館 講演会場(10:30～14:50)

NICTの研究成果である「東京駅バリアフリーマップ」を会場内に展示します。

※東京駅バリアフリーマップは、高齢者・障害者を含む歩行者が、目的地まで最適なルートで到達できる3次元GISを利用した地図です。

4. 実証実験について(14:50～16:50)

モバイル端末による災害時を想定した避難誘導を体験する実証実験を実施します。

なお、参加者の方には、講演終了後、実験内容の説明を行った後、実験場所に移動していただきます。

5. 参加申込先

氏名、勤務先、所属部署、役職、連絡先(メールアドレス、電話番号)、実証実験への参加の有無を明記の上、1月26日(木)18時までにお申し込みください。(参加費は無料です。)

なお、参加申込みは、定員(フォーラムについて200名、「次世代GIS」実証実験への参加については40名程度)になり次第、締め切らせていただきます。

<問い合わせ先>

情報通信研究機構 総務部 広報室

奥山 利幸、大野 由樹子

Tel: 042-327-6923、Fax: 042-327-7587

(お問合せ先)

担当:総務省情報通信政策局宇宙通信政策課宇宙通信調査室

渡辺課長補佐、則座調査係長

電話 03-5253-5771 FAX 03-5253-5772

独立行政法人情報通信研究機構 情報通信部門

ユニバーサル端末グループ 矢入主任研究員

電話 042-327-6995 FAX 042-327-6128
